

タダゴトではない『タダコピー』

人気爆発中

創業者「取締役」は現役中大学生

商3・太田英基さん&商4・永澤雄さん

『Hakumonちゅうおう』05

年冬季号で紹介した、ビジネスコンテスト優勝者、太田英基さん(商3)

らが、そのとき受賞したプランで実際に会社を立ち上げた。会社名は「株式会社オーシャナイズ」。それが今ではテレビや新聞でも紹介されるようになった。

事業名は「タダコピー」。といえば、ああ、あれか、とけっこうご存知だろう。アレやっっているのは中大学生？

ホントなの、というような話だ。文字通り、無料でコピーができるサービス。協賛企業を募りコピー用紙の裏にカラー広告を載せることで、

普通なら10円かかるコピーの紙を無

料にしているというものだ。ことし

4月、慶応大学に専用コピー機を設置したところ大好評で、早稲田、東大などと設置する大学も拡大中だ。

会社を立ち上げたメンバーは3人。その中に、昨年のビジネスコンテストと一緒に参加した、永澤雄さん(商4)もいる。

二人はスーツで現れた。その日は平日の昼間。きょうも営業があるそう。取材の途中にも携帯電話がよく鳴った。

まずは名刺交換。よろしくお願ひします、と受け取った二人の名刺に

は「取締役」の文字。学生で会社を立ち上げてしまうのだから、入学時から「経営者になる」という高い意識をもっていたのだろうと思いきや、「僕は全然そんなことなかったですね」と永澤さん。いともあっさり言う。「ビジネスコンテストも、去年のときと、あと1回くらい出ただけです。大学1年の時は普通にバイトしてて、2年では、バイトして貯めたお金で夏にアメリカへ行きましたね。海外に行ったことなかったんです。意外と「フツー」の大学生だったんですね。

そして、2年生の夏、中大学生が経営するバー「SOUEEN」で太田さんと出会った。「SOUEEN」は7人から10人で経営しており、毎年入れ替わる。「僕らは同期だったんですよ」

逆に太田さんのほうは、早い時期から独立志向があった。「SOUEEN」に来たのは大学1年の夏。「大学に入って、4つのサークルをかけ



太田英基さん

持ちしてたんですけど、まあ、のりおくれて。それでどうしようかなあと思っていた時に、SOUEENの経営者募集のチラシを見つけて、すぐ電話したんです。そういえば、そんなチラシが8号館の机の上に配られていた気がする。でも、いざ電話をするのは勇気がいりますよね。「友だちに言われました。『お前、よくそんな怪しいのに電話したなあ』って。まあ、たしかにね(笑)」

ビジネスコンテストで優勝し、「株



永澤雄さん

株式会社オーシャナイズ」を立ち上げたのが、05年11月。今では、インターンシップも受け入れている。「あまりインターンシップという言い方はしたくないんです。企業体験というより、僕らの会社では、実際に僕たちと一緒にやってもらいたいと思ってるんです」と永澤さんは言う。

声がいい。よく通る。何かスポーツをやっていたんですか？と聞くと

「高校時代は野球をやっていました。(太田さんを指して) こいつはバレーで。だから、会社の雰囲気も、体育会系のノリになっちゃってます。ぼくらの会社は今、従業員が9人い

新たに社員として加わりたいたいという応募の電話もかかってくるという。「体育会系の自分たちのノリを嫌がらない方がいいです。誰でもウエルカムってわけじゃないですけど、

んはまだ3年生。きょうもスーツで営業ということは、学校のほうは？「行ってません」。あまりキツパリと言われても困るのだけれど。単位は？と聞いたら、苦笑い。



新聞でも大きく報じられている

「僕の中では大学は卒業しています(笑)。やりたいいことは見つけたんで。僕の中で大学は、やりたいいことを見つけて、一生の友だちを見つけたところだと思ってるんです」。永澤さんは「やりたいことはまだ模索中」と話した。

タダで始めたような「タダコピ」がタダゴトではなくなつた。設置大学がふえるにつれ、協賛企業も11月時点で47社と順調な伸び。

ほとんどが上場企業だという。

そもそも「中大バー」で出会った

2つの個性は、さらに向こうへ、大きくウイングを広げて疾走中だ。

(学生記者 猪瀬智巳 〓商学部4年)

るんですけど、みんな男で、しかも男子校出身者が7人もいるんですよ。女の園ならぬ、男の城？「そろそろ、女性メンバーを入れないとヤバイです(笑)」

自分達とフィーリングが近い人と一緒に働きたいですね」と太田さん。現在4年の永澤さんは、単位も無事とれて、今は学校よりも会社のほうに力を入れているという。太田さ